

# 日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 46) 2023.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

## ご報告

今田義夫

今年も暑い夏がやってきました。会員の皆様をはじめ、日頃から日本川崎病研究センターの活動にご理解、ご協力いただいている多くの方々に心からのお礼を申し上げます。

また、今夏は一連の世界的な異常気象の影響か、連日のように各地で大雨での大きな災害の報道がなされています。被害を受けた方々には心からのお見舞いを申し上げます。

私も、小学生の時、水害に遭い、崖が崩れ、家に泥が流れ込み避難し助かった経験があり、今もその時の恐怖は鮮明に残っています。災害に遭った子供たちの心が心配です。

さて、長引くコロナ渦の為、開催時期を模索していた、川崎先生ご夫妻とのお別れの会である「偲ぶ会」は漸く6月10日に開催されました。開催に当たっては、当センターの役員の方々が主体になり実行委員会が組織され、日本川崎病学会、親の会、日赤三金会などのバックアップも頂き、開催に至りました。実行委員会の方々の開催実現への強い意志と、多くの方々のご援助に心から感謝申し上げます。

当日は、多くの方々に会場に足を運んでいただき、又、海外からも含む多くの方々にオンラインで参加いただきました。会は、寂しさは拭えなかったものの、和やかな雰

囲気で、多くの方々からお話しを頂き、我々も知らなかったことも多く紹介され、文字通り、お二人を偲ぶと同時に二人への感謝の会ともなりました。きっと、ご夫妻揃って、天からいつもの、あの穏やかな笑顔で参加されていたことでしょう。

また、この会での追悼に合わせ、川崎富作メモリアルブックが編纂されました。これは、川崎先生は皆さまご承知のように、ご自身の論文集や業績集は嫌ったため、川崎先生が書かれた、随筆や文章を主に、木魂社の「川崎病は、いま」やご自身の著「運鈍根感厳」などから繰り返し語られた言葉を主に抜粋し掲載されています。更には世界中から寄せられた多くの追悼の言葉も掲載されています。

この中には、川崎先生が本当に伝えたかったメッセージが込められ、川崎先生らしさが溢れた追悼本となりました。この場を借りてご紹介させていただきます。

なお、購入ご希望の方は、日本川崎病研究センターまでお問い合わせいただければ幸いです。

次いで、6月3日に当センターの総会がオンライン方式で開催されましたので報告させていただきます。詳細は紙幅の都合で省かせていただきますが、本年度の事業計画として、川崎病に関する相談事業、川崎病に教育・啓発活動、川崎病の疫学研究、国際共同、公募による委託研究、学会支援

などを継続することが承認されました。このうち、教育・研究活動として勉強会が定期的に予定され、学会支援は第 43 回日本川崎病学会で、9 月 30～10 月 1 日大阪で津田悦子会長の基、開催予定です。

また、新たな役員人事では、理事として成育医療研究センター研究所の阿部 淳氏に、監事に山王病院の市田 露子氏、千葉市立海浜病院の寺井 勝氏にご就任戴きました。宜しく願い申し上げます。

今年度は 10 名の理事、2 名の監事、3 名の顧問の役員で運営させていただきます。改めて宜しく願い致します。

(日本川崎病研究センター理事長)

*Japan Kawasaki Disease Research Center*

*Japan Kawasaki Disease Research Center*

ニュースレターNo.46

お届けいたします。

ご意見ご感想をお寄せ下さい

## 富作と禮子を偲んで

大江円

父・富作と母・禮子は個性が強くエネルギッシュで、良く食べ、良く飲み、良く喋り、いつも忙しく動き回っている人たちでした。

1961 年に富作が最初の川崎病患者さんに出会ってからは、二人の人生は川崎病を中心に回っていました。川崎病を新たな疾患として認知させ、その原因を究明し、診断法・治療法・予防法を確立することが富作の人生最大の目標になりました。禮子は約 60 年間、全力でそれをサポートしました。

2019 年に禮子が 90 歳、2020 年に富作が 95 歳で旅立つまでに、川崎病は 1 つの疾患群として認知されましたが、原因は未だに解明されていません。

富作は「目の黒いうちに原因を明らかにしたい」という人生の目標を達成することはできませんでした。

富作の部屋には、川崎病のスライド、論文、書籍が数多く残されていました。二人が参加した国内外の川崎病の研究会や学会で撮られた大量の写真も整理されないままでした。身体が回復したら、また目標達成のために全力疾走しようと思っていたのでしょう。

富作と禮子は嵐のように今を生きた人たちでした。

付記：

また、今田先生、土屋先生、麻生先生、柳川先生、加藤先生その他ご尽力いただきました先生方、開催にご協力いただいた方々に大変すばらしい会をありがとうございました。

## 「偲ぶ会」を終えて

川崎 満、川崎 つぶら

父が亡くなって、丁度3年が経った今年(2023年)6月10日に「偲ぶ会」を開催して頂くことができました。父が亡くなった2020年6月は、コロナが世に広がり始め、第一回緊急事態宣言が明けたばかりでした。3年の月日が経ち、私たちもコロナと共存することに慣れてしまい、それだけ月日が経ったのだな、と感じます。

「偲ぶ会」は昨年度のセンター最後の理事会(2023年3月)で開催することが正式に決まり、それからすぐに、センターの理事の先生方で「実行委員」が組織されました。理事長の今田先生をはじめとして、高橋先生、松原先生、鮎澤先生、土屋先生が中心となり、各先生がご多忙の中、着々と「偲ぶ会」へ向けて話が進みました。実質3か月もない短期間に何度もZoomや対面会議を開き、会場に足を運ぶなど、実行委員の先生方のチーム力と実行力には只々、恐縮する思いでした。

当日、展示品として日赤小児科の医局の古い名簿を土屋先生がお持ちくださいました。それは父の入局した時の記録が記されているものでした。父の名前の数ページあたりには、母の名前が旧姓で記されていて、その横には鉛筆書きで薄く「昭和28年、川崎氏と結婚」と書かれていました。両親の歴史の始まりを見た思いでした。

当日は、久留米から加藤裕久先生ご夫妻をはじめ、各方面から沢山の生前の父と関わってくださった方々が父のためにお集まりくださいました。父と、そして母も懐かしい方々の傍らで、「偲ぶ会」のひとつときを楽しんでいたと思います。

会場でご挨拶して下さった方々、また海外からもビデオでメッセージを送ってくださった先生方のメッセージも、両親は喜んで耳を傾けていたことと思います。

父は、人との交流をととても大切にしていましたので、皆さまがいらして下さったことを本当に喜んでいたと思います。

私はひとつだけ我が儘を言わせて頂き、父に最期に見せてあげられなかった「けん玉ショー」を「偲ぶ会」で実現することができました。けん玉協会会長の松永義希様、パーフォーマーの田嶋朗様のご協力に感謝いたします。父は手を叩いて、けん玉ショーを楽しんでいたと思います。父に対する心残りのひとつを晴らした思いでした。

今回の「偲ぶ会」の企画の一つとして、土屋先生が中心となって新たな『運鈍根感敵』(追悼本)が発行されました。目を通していくと、父の軌跡、寄稿して下さった方々と父との思い出などが寄せられ、目頭が熱くなる思いです。

父は家庭人としても、最高の夫であり、世界一の父親でした。「イクメン」ということばがなかったころからの、元祖「イクメン」でした。そして、誰に対してもサービス精神旺盛に尽くす人でした。

余談になりますが、私が中学生のとき、私はLong BeachのDr. Eunice Larsonのお宅へ6週間のホームステイに行かせてもらうことになりました。(Dr. Larsonは、追悼本の中でDr. Melishも名前を挙げられているPediatric Pathologistです)

「偲ぶ会」の開催された6月10日は、中学生の私がひとりで飛行機に乗ってアメリカに出発した日と同じ日でした。父に「アメリカに行きたい」と懇願した末、父がDr.

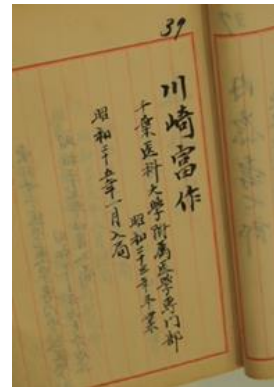
Larson が来日した際に、(父はプライベートでいつも国内外からの来客をおもてなしするのですが) 私のことを話してくれて、Dr. Larson が同席していた私に「それなら、私のうちに来なさい」と言ってくださいました。

出発当日の朝、父は大汗をかきながら、私のためにトランクに荷物を詰めてくれていました。その時の父の姿も鮮明に目に焼き付いています。ひとりでアメリカに出発して、Dr. Larson のお宅でサマーキャンプに通いながらアメリカの生活を満喫させて頂きました。滞在中、東邦大学から直江先生も Dr. Larson を訪ねていらっしやり、Larson 宅でお目にかかりました。6週間の Long Beach 滞在の最後には、父が日本から Long Beach までお迎えに来てくれて、父と二人で Seattle の Dr. Beckwith も訪ねました。こうして、毎年6月10日は、父との楽しい時を思い出させてくれる記念日となりました。父の子煩悩ぶりを書けば本が一冊出来上がってしまうほどです。

脱線してしまいましたが、今回「偲ぶ会」を開催して頂き、ひとつの区切りがついたような思いです。私はセンターにもお邪魔させて頂き、微力ながら事務のお手伝いをさせて頂いています。父の心残りである「川崎病の原因究明」を見守り、できることなら一日も早く父にいい報告ができることを願っております。

最後に、ここまでご尽力いただいた実行委員の先生方、日本川崎病学会、親の会、日赤三金会、皆さまのご協力のもと、心温まる「偲ぶ会」が無事に開催されたことを心から感謝いたします。

どうもありがとうございました。



日赤医療センター小児科医にとっての太陽

日本中の医師にとってのプライド

世界中の小児科医にとってのアイドル だった

川崎富作先生を追悼する本ができました



川崎先生の履歴は、川崎先生に数年に及ぶインタビューをして書かれた  
「川崎病は、いま」木魂社と「川崎病学」診断と治療社より抜粋しました  
論文歴は、川崎先生が論文集、業績集を嫌ったため

「川崎富作先生の足跡」と題した本から一部をのせています

川崎先生の書かれた文章・随筆は還暦の祝い、定年退職の祝い、喜寿の祝いの折に  
本にまとめた「運鈍根感厳」に多数収載されている中から繰り返し収載された文章に  
川崎先生の伝えたかったメッセージが込められていると考え掲載させていただきました  
最後に世界中の皆様から寄せられた追悼の言葉をできる限り収載させていただきました

川崎先生を追悼する本をご希望の方は 5,000 円（送料含む）でお分けいたしますので  
下記までお問い合わせください

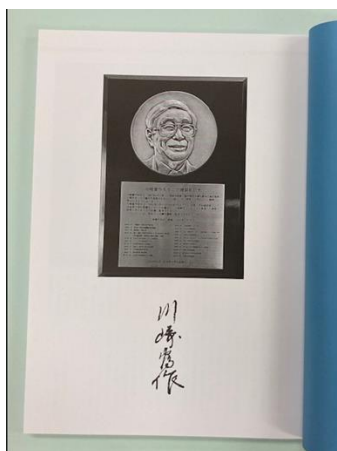
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6F

特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター内

「川崎富作先生を偲ぶ会」実行委員会 追悼本係

Tel.03-5256-1121 FAX.03-5256-1124

メールアドレス：kdcentershinobukai@gmail.com



2023年6月16日

「川崎富作先生を偲ぶ会」実行委員会

## 第 43 回日本川崎病学会学術集会開催に向けて

津田悦子

梅雨時から台風シーズンにかけ、昨今、『線状降水帯』というワードも普通に使用されるようになり、ニュースで警報が発せられ、日常では思ってもいなかった災害に突然遭遇します。自然破壊・温暖化の影響は、じわじわと私たちに忍び寄ってきています。さて、2023年9月30日(土)、10月1日(日)に、『時代を超えて、予後を見据えて』というテーマで、国立循環器病研究センター(大阪)で、第43回日本川崎病学会学術集会(<https://jskd43.org>)を開催させていただきます。

川崎病が報告され半世紀が過ぎ、川崎富作先生も3年前に逝去されました。『川崎病の発見』という一つの時代が終わったのかもしれませんが。第2次世界大戦が終結し、戦後復興後の高度経済成長と、世界での日本の立ち位置が大きく変わっていく中、川崎病は発見され、日本から世界に発信されました。川崎病は日本人の罹患率が最も高いですが、各国においても経済発展を遂げていく過程で、罹患率の増加が見られます。環境とヒトとのインターアクション、そこに疾病が存在するのはいうまでもありません。川崎病は、その最たるものかもしれません。2019年末からのCOVID-19の流行は、世紀に残る感染症の一つですが、小児多系統炎症性血管炎症候群(MIS-C)が報告され、川崎病が再びクローズアップされました。川崎先生が名付けられた“小児急性熱性皮膚リンパ節症候群”とやや類似?の疾患名です。川崎病は症候群であり、周

辺を類縁疾患がとりまきます。MIS-Cによる”川崎病”の解明から、川崎病の病態、原因の解明につながるものが期待されます。今回の学術集会では、シンポジウムとして『日本における小児 COVID-19 関連多系統炎症性症候群 (MIS-C)』『移行期・成人期の治療と問題点』を企画しました。日本川崎病研究センターとの共催により、Moshe Arditi 先生 (Department of Pediatrics, Cedars-Sinai Medical Center, Los Angeles, CA, USA) をお招きし、『Immunopathology and insights from Kawasaki Disease mouse models: Key role of IL-1 beta』をご講演いただきます。また、特別講演として、国立循環器病研究センター名誉総長北村惣一郎先生による『小児冠動脈バイパス手術の開発と普及：川崎病・先天性心疾患を対象として』、Brian McCrindle 先生 (Division of Cardiology, Department of Pediatrics, University of Tront, The Hospital for Sick Children, Ontario, Canada) の『Insights from the International KD Registry』ビデオレクチャーがあります。その他、日本川崎病学会会員の皆様に興味深い多数の演題をご発表いただきます。

『川崎病』という疾患は、年齢で言うと“56歳”になりました。報告当時に罹患した子供達は立派な成人となり、社会生活を過ごされています。反面、川崎病に罹患し成人を迎えることができなかった無念の子供達も少なくありません。川崎病罹患後の寿命はどうか。気になる問題です。この半世紀に医療は目まぐるしい進歩を遂げました。川崎病の発見から免疫グロブリン製剤による急性期治療、遠隔期の冠動脈後

遺症に対する冠血行再建術、先人の諸先生による大きな功績により、川崎病罹患後の致命率は激減しました。しかし、今なお、診断の遅れや類縁疾患との鑑別の難しさから、川崎病による冠動脈後遺症をもつ子供達があります。また、成人期に突然死に至る川崎病既往患者、川崎病による冠動脈障害と診断されていなかった成人例が報告されています。川崎病は”56歳”となり、川崎病既往成人の経過も少し見えてきました。それらの予後を明らかにし、川崎病と冠動脈後遺症の治療を振り返り、さらなる予後の改善に活かせるように議論できればと思います。1970年の『大阪万博一人類の進歩と調和』跡地に建てられた旧国立循環器病院センターは、2019年に大阪吹田市健都『岸边』に移転しました。時代は移りゆきますが、時代を超えて、疾病とヒトとの戦いは永遠に続きます。川崎病に対する立ち位置も時代とともに変わっていきませんが、川崎病を“撲滅”することができる日を川崎先生はお墓の下で願っておられることでしょう。

国立循環器病研究センター  
小児循環器内科/医療安全管理室  
(第43回日本川崎病学会学術集会 会長)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center



第43回日本川崎病学会学術集会  
市民公開講座

日時：2023年10月1日 (日)

場所：国立循環器病研究センター エントランス棟 3階  
大阪府吹田市岸部新町 6-1

講演会 16:00~17:00 無料

1、『川崎病に似ている小児多系統炎症性症候群 (MIS-C)、

その違いは?』

大阪急性期総合医療センター 小児科 小垣滋盛

2、『川崎病による冠動脈障害を乗り越えよう』

国立循環器病研究センター 小児循環器内科 津田悦子

3、相談会 17:00~17:30

主催 第43回日本川崎病学会・学術集会 <https://jskd43.org>

共催 川崎病の子供をもつ親の会 <https://kawasakidisease.gr.jp>



## 事務局から

### 【センター日報】

- 2023年5月19日 2023年度第1回理事会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議  
2022年5月19日 2023年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議  
2023年6月3日 2023年度総会と研究報告会開催（於:当センター） 1:00pm Zoom 会議  
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に  
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。  
2023年6月3日 2023年度第2回理事会開催 総会后（於:当センター） Zoom 会議  
2024年3月8日 2023年度第3回理事会開催予定 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

### 【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】2023年7月末現在

[正会員：67名、1法人、3任意団体]：[賛助会員：97名、1法人、0任意団体]

### 【学会・研究会・国際シンポジウム】

- ★ 第43回日本川崎病学会 2023年9月30日～10月1日 於:国立循環器病センター  
会頭:津田悦子先生（国立循環器病研究センター小児科）
- ★ 第47回近畿川崎病研究会 2023年3月4日（土）13:00～ 於: 完全 Web 開催  
運営委員長:津田悦子先生（国立循環器病研究センター小児科）
- ★ 第43回東海川崎病研究会 2023年5月20日（土）開催予定  
代表世話人:加藤太一先生（名古屋大学小児科）
- ★ 第42回関東川崎病研究会 2023年6月17日（土）於:日赤医療センター講堂  
会長: 鮎澤衛先生（神奈川工科大学健康医療科学部／日本大学医学部）
- ★ 予定：第14回国際川崎病シンポジウム 2024年8月26日～8月29日 於: 開催（カナダ、モントリオール）会頭:Najib Dahdah, MD ・ Adriana Tremoulet, MD
- ★ 「川崎病の子供をもつ親の会」 問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

**新会員募集にご協力ください!!!**

**正会員 年会費 20,000 円**

**賛助会員 年会費 5,000 円**

### 【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。<[kdcentersoudan@gmail.com](mailto:kdcentersoudan@gmail.com)> 担当理事が、随時返信でお答えさせていただきます。電話・Faxによるご相談はご遠慮ください。

### 【川崎病急性期カードお申込み】

専用アドレスを開設しました。<[kdcenterkdcad@gmail.com](mailto:kdcenterkdcad@gmail.com)> 主治医の先生に記入して頂き、母子手帳などと共に保存して今後にお役立てください。

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター  
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6階  
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124